

2022年4月15日

カプロラクタム事業の撤退について

住友化学は、このたび、愛媛工場（愛媛県新居浜市）にある、ナイロンの原料となるカプロラクタムの製造設備を、2022年10月をめどに停止し、同事業から撤退することといたしました。

住友化学は、1965年に液相法と呼ばれる製法によるプラントの操業を愛媛工場で開始して以降、50年以上にわたりカプロラクタム事業を行ってきました。その後、中国を中心にカプロラクタムの製造設備が世界的に増加したことから、15年に液相法プラントを停止し、硫安を出さない製法の気相法プラントで生産を続けてきました。その間も、技術の改良やコスト削減を続けてきましたが、同事業を継続していくための競争力を将来にわたって確保することは困難との判断に至り、今回、同事業から撤退することとなりました。なお、カプロラクタムの中間原料であるシクロヘキサノンについては、今後も堅調な事業環境が見込まれることから、製造販売を継続していきます。

愛媛工場では、カプロラクタムの生産を終了しますが、市場の変化に合わせた取り組みを積極的に行っています。18年に飼料添加物メチオニンのプラントを増設したほか、半導体用高純度ケミカルやスーパーエンジニアリングプラスチックの一つである液晶ポリマー（LCP）のプラント建設に着手しています。また、カーボンニュートラルの時代に対応するため、アクリル樹脂のケミカルリサイクルの実証設備を建設中であるほか、同工場構内にLNG基地を誘致し、インフラの再構築も行っています。

住友化学は、4月にスタートさせた22～24年度中期経営計画において、技術に立脚した事業の稼ぐ力を強化するとともに、成長市場を見据えた事業の新陳代謝を促進しています。今回の事業撤退は、こうした方針に沿うものであり、当社はこれからも、事業ポートフォリオの高度化を推進してまいります。

<停止するカプロラクタムプラントの概要>

生産能力 : 85千トン/年
プラント操業開始 : 2003年6月

以上